

群馬県立富岡実業高等学校 学校評価一覧表 ① (平成30年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部不審	改善策	自己評価	外部不審	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 各学科コースの専門教育に生徒の80%以上が満足している。	ア 専門科目の座学や実験実習の授業改善を図り、基礎学力、専門的知識や技術・技能を基礎から着実に身に付けさせる。また、外部機関との連携強化に努め、積極的に活用する。1学年にはコース選択のためのガイダンス科目「産業社会と人間」を充実させる。	A	A	実習・選択科目などの少人数制の授業形態を、生徒の90%がその効果を認めており、保護者も96%が本校の専門教科の学習指導に満足している。活動を継続するとともに、さらに、外部機関等との連携を積極的に実施するなど、授業の形態を工夫する。	A	A	少人数制の授業形態を生徒の89%がその効果を認めており、保護者も94%が専門教科の指導内容に満足している。さらに授業改善を推進・継続する。また、1年次の「産業社会と人間」でより興味・関心をもたせ、専門コースへの動機づけを図る。
		② 地域貢献活動に積極的に参加し、その活動を評価する生徒が70%以上である。	イ 地域貢献活動として行政や地域の小・中学校、各種団体との連携・交流を行い、活発に情報発信を行う。地域活性化活動等は、普通科・農業科・工業科が協力して推進する。生徒には、学年・コースに応じた活動の場を設定する。	A	A	地域交流・連携の大切さを考える生徒は90%、参加している生徒も44%で、昨年よりもやや増加した。また、保護者の93%が交流活動を評価している。活動を継続するとともに、さらに生徒が参加しやすい交流や形態を工夫する。	A	A	地域交流活動の大切さを生徒78%・保護者94%が評価している。また、地域交流活動に参加した生徒も昨年度の44%から46%へと僅かに増加した。活動継続のための生徒間の引継ぎを丁寧に行いたい。
		③ 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	ウ 基礎・基本を重視し、繰り返して学べる学習指導を行う。また、生徒会活動、農業クラブ活動、各部活動・研究部活動や文化祭など生徒が意欲的に参加できる行事等をより工夫する。	B	A	富実を選んで良かったと回答した保護者は91%、生徒は86%で、昨年度と同様な結果となった。しかし、やや増加したものの、行事に満足している生徒は74%に止まっていることから、各部との連携を図り行事等を工夫する。	B	A	富実を選んで良かったと保護者の88%が評価しているが、生徒は80%と若干低下した。行事に満足している生徒も75%に止まっていることから、富実を選んで良かったと思えるよう、行事の内容をさらに工夫・精選する。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業がわかりやすい」と、生徒の70%以上が答えている。	エ 授業公開週間を年3回実施し、テーマを設けて授業改善に取り組む。また、各学期ごとに成績不振者に対する指導を充実させる。	C	C	授業がわかりやすいと回答した生徒は64%、保護者は76%であり、授業改善を重ね、生徒にわかりやすい授業を工夫する。	C	C	授業がわかりやすいと回答した生徒は64%であるが、その内訳として十分満足していると回答した生徒が5%増加している。さらに、わかりやすい授業を工夫する。
		⑤ 資格取得に向けた指導に、生徒の80%以上が満足している。	オ 生徒・保護者に対して資格取得の意義を伝え、補習等を活用して受験率と合格率を高める。	A	A	生徒86%、保護者91%、職員92%が資格取得指導に肯定的である。工夫・改善を図りながら継続指導を実施する。	A	A	生徒の84%、保護者の86%が資格取得指導に満足している。さらに合格率の向上を目指して指導を工夫する。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒が、80%以上である。	カ 授業規律の確立を土台に、対話的な学びの導入やICTの活用等によって生徒の意欲を引き出す指導を実施する。	B	A	生徒の88%が意欲的に学習に取り組んでいると自覚し、保護者の91%、職員の78%が授業改善の取組を評価している。さらに継続指導を実施する。	B	A	意欲的に学習に取り組んでいると自覚している生徒は84%であるが、職員は60%と開きがある。より意欲をもたせられるような授業改善にさらに努める。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ 自己の目標に応じた学力を身に付けたと自己評価している生徒が、80%以上である。	キ 朝学習や放課後の補習等を活用し、学習習慣を身に付けさせ、資格取得や苦手科目等の解消に向けた指導に取り組む。	D	D	目標をもって勉強している生徒が66%であるが、補習等に取り組んでいる生徒が55%と少ない。学習習慣を身に付けさせる工夫を、さらに検討する。	D	D	目標をもって勉強している生徒が58%、補習等に取り組んでいる生徒が51%と前回よりも減少した。将来の目標に向けた学習の大切さを伝える工夫がさらに必要である。
		⑧ 学校は安全であり、安心して学校生活を送っていると感じている生徒が90%以上である。	ク 職員会議や学年会で生徒に関する情報交換を緊密に行い、生徒の状況把握と情報の共有を図り、問題行動やいじめ問題の未然防止に努める。また、職員全体できちめな指導を行う。	C	C	保護者は91%であるが、生徒の評価は77%、職員も81%と目標に届いていない。生徒の情報交換を緊密に行うとともに、生徒が悩み等を相談しやすい環境を整える。	C	C	学校は安全であり、安心して学校生活を送っていると評価する保護者は88%、生徒は74%と低い状況にある。この要因をしっかりと分析し対策を立てる必要がある。
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 欠席率が1.0%以下、遅刻率が0.3%以下である。	ケ 卒業後の進路実現を見据え、家庭と連携を取り、基本的な生活習慣の確立を図る。	A	A	欠席率は1.0%、遅刻率は0.2%だった。今後も家庭と連絡を取りながら、この状態を維持したい。	D	D	生徒・保護者ともに欠席・遅刻をしない、させないという意識は高いが、欠席率は1.3%、遅刻率は0.5%という結果となった。体調管理を含め早急に改善策を立てる必要がある。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	⑩ 毎日朝食を摂るなど、健康に留意した生活を送るよう意識している生徒が80%以上である。	コ 毎日規則正しい生活を送るために、保健便り等を通じて睡眠や朝食を摂ることの大切さを理解し実践するよう意識させる。	C	C	毎日朝食を食摂ると答えた生徒が85%、同様に回答した保護者も87%だった。一方、学校生活に支障のないよう十分な睡眠を取っていると答えた生徒は71%であることから改善が必要である。	C	C	80%以上の保護者と生徒が毎日朝食を摂っていると答えているが、朝食を摂らない生徒も17%いる。また、睡眠不足と思われる生徒も30%近くいるので、規則正しい生活を促すようさらに指導が必要である。
		⑪ いじめをしない許さない態度を身に付け、いじめ防止に向け積極的に取り組む生徒が85%以上である。	サ 生徒会が中心となり、いじめ防止の年間計画を立案し、クラスでの話し合い、標語づくり、いじめ防止フォーラムの成果を生かした活動等、生徒主体の活動を充実させる。	C	C	生徒の評価は76%で目標にあと一歩足りない状況である。いじめをしない許さない気持ちはもっているため、いじめ防止フォーラムを契機に、生徒主体の取組をより充実させる。	C	C	人の嫌がることをしないよう意識している生徒は90%であるが、いじめ防止活動を積極的に実践している生徒は70%である。生徒主体の実践をさらに充実させる必要がある。
	7 計画的な指導を行っていますか。	⑫ 進路に関する行事が進路選択に役立っていると評価する生徒が85%以上である。	シ 進路講演会、進路相談会、インターンシップなど、進路への関心を高める行事を開催する。	A	A	進路に関する行事が進路選択に役立っていると評価する生徒が92%、保護者が93%である。今後もわかりやすい行事を継続する。	A	A	進路選択に役立っていると評価する生徒が88%、保護者は91%である。より生徒に身近でわかりやすい行事を工夫する。
8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬ インターンシップの効果を参加生徒の85%以上が肯定的に評価している。	⑭ 自分の適性について理解し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が85%以上である。	ス 2学年全ての生徒にインターンシップを実施し、キャリア形成の基礎とさせる。	A	A	インターンシップの効果を参加生徒の91%、保護者の93%が肯定的に評価している。今後も活動の継続と連携先の開拓を行う。	A	A	インターンシップの効果を生徒の89%、保護者の94%が肯定的に評価している。さらに生徒のニーズに合った連携先を開拓する。
		⑮ PTA活動や学校行事等に積極的に参加している保護者が、70%以上である。	セ 適性検査や進路ワークブック・NOLTY手帳を活用し自己理解を深めさせ、積極的に進路学習に取り組ませる。	C	C	取り組んでいると評価した生徒が75%、保護者が81%であることから、より生徒への働きかけを増やし教材の活用を図る。	C	C	積極的に取り組んでいると評価した生徒が72%、保護者が80%であることから、生徒の自覚を促すようさらに検討・工夫する。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯ 授業公開、学校からのメールや配付物、ホームページの閲覧等を通じて、保護者の70%以上が学校の様子を理解できている。	ソ 印刷物による連絡だけでなく、GSNメールやホームページを通じて発信するなど、PTA活動や学校行事への参加呼びかけを工夫する。	D	D	PTA行事に積極的に参加していると答えた保護者は48%である。GSNメールをさらに活用する等、呼びかけの工夫や、実施時期・内容を含めた工夫をさらに行う。	D	D	PTA行事に積極的に参加していると答えた保護者は、40%と前回よりも少なくなっている。GSNメールの活用と同時に、広報や実施時期等の見直しが必要である。
		⑰ 授業公開、学校からのメールや配付物、ホームページの閲覧等を通じて、保護者の70%以上が学校の様子を理解できている。	タ 授業公開を年3回実施、ホームページの定期的な更新、学校通信の発行及びGSNメールで学校情報を積極的に発信する。	C	C	学校での生活をだいたい把握している保護者は69%、今年度、富実の新聞やHPを見たことがある保護者は62%だった。GSNメールなどを通じて情報発信をさらに充実させる。	C	C	学校生活を把握している保護者が69%、富実の新聞やHPを見たという保護者は63%で、前回とほぼ同じであった。配付物がきちんと家庭に届いているか確認が必要である。

